

ひろしまの遺跡

第126号

小早川本拠地の麓で集落跡を発見！

— 城ノ本遺跡（竹原市） —



城ノ本遺跡と県史跡木村城（北から） 破線が調査範囲



柱穴群（南西から）

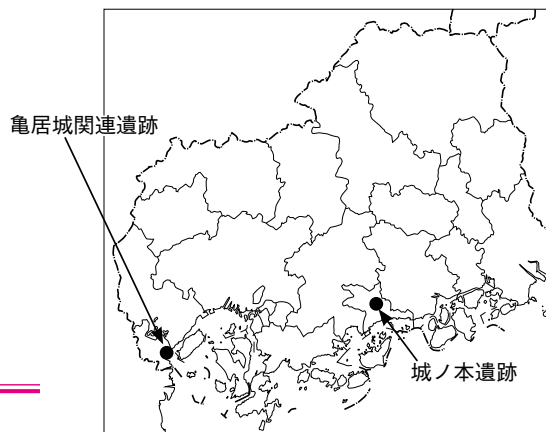
遺跡は県史跡「木村城跡」の西側・賀茂川の東側に立地しています。木村城跡は、鎌倉時代の初め（13世紀前半）から室町時代後半（15世紀後半）頃まで竹原小早川氏が本拠とした山城跡で、14代隆景のとき本拠を国史跡「高山城」（三原市）に移しています。

城ノ本遺跡は城跡の西側山裾と賀茂川の東側に挟まれた南北方向に長い遺跡で、調査区の中央付近で木村城跡とほぼ同時代の柱穴跡が多数見つかりました。

発掘調査速報

城ノ本遺跡（竹原市新庄町）

調査期間 令和3年4月12日～9月3日



城ノ本遺跡の調査は、一般国道432号（竹原バイパス）道路改良工事に伴って実施しました。調査の結果、井戸跡1基、掘立柱建物跡1棟、土坑13基、石垣1基、性格不明遺構7基及び柱穴跡約250基を検出したほか、調査区南端部分で水田跡を確認しました。

井戸は深さ約2.6mの石積みで、石材の中に矢穴^{やあな}が認められる石材が1点含まれていました。掘立柱建物跡は、柱穴の埋土から土師質土器、青磁が出土しています。土坑の内、SK3から硯、SK10からは備前焼の甕の破片が多く出土しています。性格不明の遺構（SX2）からは、大量の土師質土器が出土しており、洪水に伴う土器だまりと考えられます。水田跡からは、畝状の高まりや足跡等は確認できませんでした。調査区南端で現代の水田石垣と方向の違う石垣の中にも、矢穴がある石材が1点含まれていました。遺物は14～15世紀代の土師質土器が多く出土していることから、遺跡の性格は中世の集落跡・水田跡と考えられます。また、遺構外から、風炉^{ふうろ}や輸入磁器碗など一般の集落ではみられない遺物も出土しています。

今回の調査で木村城跡の山裾において、城と同時期に集落が営まれていたことが確認できました。遺跡の検討はこれからの作業となりますが、周辺の竹原小早川氏に関連する遺跡などから遺跡の性格を考えていく必要があります。

（山田繁樹）



井戸の石積み（南西から）



SX2 遺物出土状況（南東から）



矢穴の痕跡



水田の石積みにある矢穴（南西から）

亀居城関連遺跡（大竹市小方）

調査期間 令和3年4月12日～10月8日

亀居城関連遺跡が所在する大竹市小方は、瀬戸内海と急峻な山に挟まれた狭小な平野です。古代山陽道の遠管駅があったとされており、現在でも交通の要衝となっています。

第4次調査となる今年度は、市道として使用されていた道路部分を調査しており、調査区は5つに分かれています。調査の結果、どの調査区からも西国街道と思われる整地層がみつかり、4つの調査区では亀居城築城時の可能性がある石垣の一部を確認しました。西国街道と思われる整地層の土層断面では、複数の土層が重なっている様子が確認でき、街道は何度か整地され直されていました。整地層には焼土を多く含む層もあり、この地で過去に火災があったこともわかります。また、街道の中央付近から溝状の遺構もみつかりました。

石垣は、1～2段残存している状態で、3か所からみつかりました。石材に刻印（一の下に△、○の中に十）や矢穴が確認できるものもあり、亀居城築城時のものではないかと思われます。また、石垣は現在の海岸から離れていますが、石垣が築かれた当時は海に面していたと考えられます。調査区内からは近世以降の瓦・陶磁器や古銭などが出土しています。

亀居城関連遺跡については今年度で調査は終了ですが、これまでの調査でも西国街道、町家跡、亀居城に関連する石垣などを確認しており、当時の歴史を考える上で貴重な資料を得ました。（新井真吾）



西国街道の残存状況



西国街道の土層断面（中央の部分）



西国街道で見つかった溝状遺構



建物を区画したと考えられる石列



石垣の残存状況 1



石垣の残存状況 2



石垣の刻印



矢穴

こんなこともしています

亀居城関連遺跡第3次調査では、貝がたくさん集まっている場所がみつかっています。亀居城関連遺跡は海を埋め立ててつくられた江戸時代の町で、すぐ前は海だったため、貝層の貝が食べたものなのか、自然に集まったものなのかはよくわかりません。貝層の内容をつかむため、貝の一部を持ち帰り分析を行うことにしました。土ごと持ち帰っていたため、まずは洗浄です。3mmの目のふるいに乗せて、そっと水で泥を落とすと、貝のほかに動物の骨も見つかりました。骨はほとんどが魚の骨ですが、一部鳥の骨などもあるようです。洗浄後、専門家の指導のもとに、貝の仕分けを行っています。貝層の主体はアサリですが、サザエやカキなどの貝もみつかりました。またアサリは大きさや数の把握のため、殻頂の向きで分けました。仕分け作業はまだ始まったばかりなので、これからほかの種類の貝や動物骨がみつかるかと期待しています。今後も詳細な分析を行っていきます。



洗浄中



きれいになった貝類



みつかった動物の骨



左上：ヒラメ
左下：ハギの仲間
(ウマヅラハギ?)
右：鳥(サギか)



専門家による指導



アサリ以外の貝類



貝の仕分け



動画でみられるようになりました！

当調査室では発掘調査にあたって、広く県民に発掘調査の成果を知っていただくために、県内外へ周知し、現地見学会あるいは報告会を行っています。しかし、新型コロナウイルス感染防止対策として、昨年度から関係機関等への周知を行わず、参加者を地元の方に限定して現地見学会を実施しています。

見学会に来られた地元の方だけでなく、多くの方にも発掘調査の成果を知っていただきたいことから、見学会の動画の制作に着手したことは、以前の「ひろしまの遺跡」で紹介しました。「見やすく」、「分かりやすく」を心掛け、試行錯誤を重ね、ついに動画が完成しました。

第一弾は、昨年度発掘調査を行った「亀居城関連遺跡」と「石鎚権現遺跡^{いしづちごんげん}」です。「亀居城関連遺跡」は近世の西国街道と町家、そして石垣が見つかりました。「石鎚権現遺跡」は弥生時代の集落と時期不明の墓坑群を確認できた遺跡です。詳しくはHPの動画をご覧ください、動画ならではの現場の雰囲気や臨場感を是非体感してください。今後も遺跡を紹介する動画を計画していますので、ご期待ください。



発掘調査ニュースの記事と併せて
ご覧になってください



当室のホームページは
こちらから

発掘調査研修（実習課程）

当室では広島県教育委員会からの委託により、広島県内の市町の文化財担当者を対象とした発掘調査研修を行っています。研修には実習課程と基礎課程があり、7月13日～14日に、城ノ本遺跡において実習課程を行いました。今年度は5名が参加し、遺跡の測量や遺構の実測などを学びました。

基礎課程では遺跡から出土した遺物の取り扱いや、報告書作成などを学ぶ予定でしたが、緊急事態宣言発令により延期となりました。



研修の様子（城ノ本遺跡）

ひろしま考古学講座IX(2020) —考古学おいでまいど2—

2019年に始まった世界的コロナウィルスの感染拡大の影響は、世界の片隅の広島にも大きな影響を及ぼしました。2021年の1月から3月に予定していた「ひろしま考古学講座IX」は5月～7月に延期することとなりましたが、5月から6月の感染拡大の第4波の影響で、第2回と第3回は再度延期して実施することとなりました。このため7月に毎週実施するという変則的な講座開催となりました。開催にあたっては、感染対策に万全を期し事前申し込み制とし、会場の消毒やソーシャルディスタンスなどに配慮しました。

また今回から会場を県立総合体育館の会議室から県立美術館の講堂に変更しました。ここは講座等の専用室として階段教室仕様になっており、参加者のアンケートでも好評でした。今年度も2022年1月から3月の開催を予定しています。安心して参加していただけることを祈念しています。

ひろしま考古学講座IX (2020) —考古学おいでまいど2 (オンデマンド・On Demand企画)—

会 場 広島県立美術館 講堂 (広島市中区上幟町2番22号)

時 間 14時00分～16時00分

回	期 日	演 題	講 師
1	2021(令和3)年 5月8日(土)	尾道の中世瓦 —時宗寺院・常称寺の発掘調査から—	西井 享 (尾道市企画財政部文化振興課)
2	7月24日(土)	世羅台地の考古学 —古代から中世にかけての世羅台地—	林 光輝 (世羅町教育委員会社会教育課)
3	7月31日(土)	古代郡衙の謎に迫る —「日本霊異記」記載の三谿郡の考古学—	和田 崇志 (廿日市市教育委員会生涯学習課)
4	7月3日(土)	埋蔵文化財からみた呉の海軍関連遺構	荒平 悠 (呉市文化スポーツ部文化振興課)
5	7月10日(土)	庄原の前方後円墳 —最近の調査から—	稲垣 寿彦 (庄原市教育委員会生涯学習課)
6	7月17日(土)	鋸と日本刀 —古代の鍛冶技術の革新—	伊藤 実 (当事業団 埋蔵文化財調査室)



第1回(5.8)(聴講者48名)



第2回(7.24)(聴講者64名)



第3回(7.31)(聴講者70名)



第4回(7.3)(聴講者59名)



第5回(7.10)(聴講者68名)



第6回(7.17)(聴講者62名)

ホンモノの遺物を

授業で使ってみた！



三択問題で挙手

ホンモノを見て、触って、ビックリ！！

6月16日（水）に廿日市市立四季が丘中学校で、弥生土器や石包丁などの実物教材を使った歴史の授業を見学させていただきました。

授業の一部を紹介します。まずは、三つの石から弥生時代の人が使っていた石器を選ぶ問題です。正解発表にざわめきがあったのは、じっくり考えた証拠です。続いて、遺物（土器・石器など）の観察です。慎重に手に取って、注意深く観察していました。一番人気の遺物は石包丁でした。魅力は、手触りと切れ味（?）でしょうか。最後に、遺物を現代の物に置き換えてみるプリント学習です。便利な道具が登場しても、生活の基本はどうやら同じようです。

それでは、授業後の感想を紹介します。「写真で見ると、実際に持つてみるのとでは全然違った。重さ、大きさ、触った感じなど、いつもの授業で分からないことが分かった。特に、石包丁を持った時は、とても軽くて、あまり鋭くないことが分かって驚いた。」「この前の授業で使った（レプリカの）縄文土器より弥生土器の方が、やはり薄くて軽くてビックリしました。石包丁、砥石などがあって、素材や形が違っても、今と昔は似ているところがあるのだなあとと思いました。」

遺物からたくさんのことを学び取ろうとしたことが、みなさんの感想から伝わってきます。

ホンモノに触れて初めて感じる事、知ること、考えることがあります。遠い祖先が残してくれた遺物は私たちの財産です。ホンモノの遺物を教材として、授業で使ってみませんか。



遺物の観察



プリント学習

学校へお届けします

今回の授業で使った弥生土器や石包丁は、「れきし体感学習セット」を使用しました。このセットは、学校で活用してもらうため、県内の遺跡で出土した遺物を厳選したものです。現在、弥生時代と古墳時代のセットがあり、小・中学校や高等学校で利用されています。利用するにあたっては、当調査室まで来ていただく必要がありました。しかし、「調査室まで来る時間がなかなか捻出できない」との声が寄せられています。このことから、来年3月までを試用期間として、当調査室が学校へ「学習セット」をお届けすることにしました。詳細はホームページをご覧ください、直接ご連絡ください。

インターンシップ研修

8月16日(月)～20日(金)に、安田女子大学の学生4名が当室でインターンシップ研修を行いました。当初は夏休みの子供向けイベントの運営を行う予定でしたが、緊急事態宣言により中止となったため、現在調査中の亀居城関連遺跡から出土した土器や古銭の洗浄および注記などの整理作業や、貝の仕分け作業を行いました。ほかにも企画展に貸出す資料の準備や、図書整理など、様々な内容の仕事をしましたが、どの作業も熱心に取り組んでいました。



土器の洗浄



貸出資料の準備

令和3年度 ひろしまの遺跡を語る

開催日 令和4年1月29日(土) 13時～
会場 広島県民文化センター 多目的ホール

ひろしま考古学講座IX

- 第1回 令和4年1月8日(土)
- 第2回 1月22日(土)
- 第3回 2月5日(土)
- 第4回 2月12日(土)
- 第5回 3月5日(土)
- 第6回 3月19日(土)

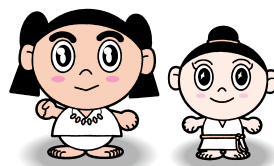
会場 広島県立美術館 講堂
時間 14時～16時

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせします。



ひろしまの遺跡を語る(令和2年度)

お知らせ



あとがき

今年の夏は非常に暑く、マスクを着用しての発掘調査はとても大変だったようですが、無事に終わることができました。この秋からは新たな遺跡での調査が始まります。また、恒例行事となった「ひろしまの遺跡を語る」と「考古学講座」も開催予定です。コロナ禍ではありますが、可能な限りの対策を講じていきたいと思っています。引き続きご協力をお願いいたします。

(公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室報 ひろしまの遺跡 第126号

発行日 令和3年11月5日
編集 (公財)広島県教育事業団事務局埋蔵文化財調査室
〒733-0036 広島市西区観音新町4丁目8-9
TEL(082)295-5751 FAX(082)291-3951
ホームページ <https://www.harc.or.jp/>
E-mail maibun@harc.or.jp
発行 (公財)広島県教育事業団
印刷 株式会社ニシキプリント

